

授業づくりへのヒント集

授業づくりに役立つ書籍について紹介しています。シリーズものが多いので、一部を除き、著者名は省略しています。

授業づくりの参考書籍	書名	説明
目標と評価関連	授業づくりのスタートは目標の設定と評価規準/基準/方法の設定からです。以下の資料を参考にしましょう。	
		【webサイトもあるもの】
	中学校学習指導要領（平成29年告示）	目標設定は、まず指導要領を読み込むところから。各学年、科目の指導事項の理解をしっかりとしましょう。 文部科学省HPにPDFあり。
	高等学校学習指導要領（平成30年告示）	
	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料	評価基準づくりに悩んだら、これに立ち返りましょう。国立教育政策研究所HPにPDFあり。
	今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校）	
	今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開（高等学校）	教科横断の視点なども含めて考えたいときにはこれも参考にしましょう。文部科学省HPにPDFあり。
		【書籍のみ】
	理解をもたらすカリキュラム設計（日本標準）	ウェギンズとマクタイの逆向き設計理論に基づく授業づくりを目指すときに必要。
	「逆向き設計」実践ガイドブック（日本標準）	
	新しい教育評価入門 増補版（有斐閣）	教育評価の基本を理解するときにはこの本。少し難しいが、幅広く理解ができる。
	新たな時代の学びを創る 国語科教育研究 中学校・高等学校（東洋館出版社）	
	国語教育を学ぶ人のために（世界思想社）	国語教育の基本を学ぶにはこのあたりから。『国語教育を学ぶ人のために』は、少し古い本だが、未だに有用な知見がたくさんある。
	臨床国語教育を学ぶ人のために（世界思想社）	

教材研究関連	<p>目標と評価が決まったら、今度はどのように指導するかということになります。国語科、特に「読むこと」の場合は、教材への理解の深さが方法を規定する側面がありますので、教材への理解を日々深めていくことが肝要です。教材研究に使える書籍を以下にリストアップしておきますが、網羅的ではないので、書籍の参考文献などからさらに広げていきましょう。</p>
	<p style="text-align: center;">【現代文関連】</p>
	<p>研究資料現代日本文学（明治書院。新版もあり） 現代日本文学大系（筑摩書房） 現代短歌大事典（三省堂） 現代俳句大事典（三省堂） 現代詩大事典（三省堂）</p> <p>基本的な文学情報を得るときにはこういったものを使います。大系や全集は他にも多数ありますので探してみましょう。</p>
	<p>国語を教えるときに役立つ基礎知識（くろしお出版） 国語教師が知っておきたい日本語音声・音声言語（くろしお出版） 国語教師が知っておきたい日本語文法（くろしお出版）</p> <p>山田敏弘氏による著書。項目ごとに短いページでまとめられており、概略がつかみやすい。</p>
	<p>俳句のルール（笠間書院） 俳句の授業ができる本—創作指導ハンドブック（三省堂） 合本俳句歳時記（角川書店）</p> <p>俳句関連。読み、創作ともに参考になる。歳時記はいろいろなものがあるので見比べるとよい。</p>

【古文関連】	
教材研究関連	古典文学解釈講座（三友社） 研究資料日本古典文学（明治書院） 古文の教材研究に困ったら、まずはここから。
	日本古典文学大系/新日本古典文学大系（岩波書店） 日本古典文学全集/新編日本古典文学全集（小学館） 新潮日本古典集成（新潮社） 日本思想体系（岩波書店） 全集系のもの。それぞれに収録されているものが異なるところがある。同じ古典が収録されている場合は、注釈や文字の異同などを見てみると授業ネタが見つかる。 このほか、「～新講」、「評注～」等の名称で各古典文学の解説書などが存在する。
	日本国語大辞典（第二版） 角川古語大辞典 歌ことば歌枕大辞典（角川書店） 新潮国語辞典 現代語・古語 岩波古語辞典 古典基礎語辞典（角川学芸出版） 実例詳解古典文法総覧（和泉書院） 辞書の類い。このほかにも多数。『日本国語大辞典』は編集時点で見つかった最古と思われる例を収録しているという。『角川古語大辞典』は最大級の古語辞典。『歌ことば歌枕大辞典』は和歌を読むときに強力に働く。『新潮国語辞典』は用例の質がよい。『岩波古語辞典』は動詞の連用形で引ける。『古典基礎語辞典』は収録語数は少ないが、解説が詳しい。『実例詳解古典文法総覧』は文法を理解するときに強力。和泉書院サイトにある補遺稿には、本体に収録されていないものが補足されている。
	和歌のルール（笠間書院） ひとまず和歌について知りたかったらこちら。ここからいろいろな本に渡っていくとよい。

【漢文関連】	
教材研究関連	漢詩・漢文解釈講座（昌平社） 漢文の教材研究（漢水社） 研究資料漢文学（明治書院） 漢文の教材研究に困ったら、まずはここから。
	新釈漢文大系（明治書院） 全釈漢文大系（集英社） 中国古典小説選（明治書院） 漢詩大系（集英社） 中国詩人選集（岩波書店） 中国古典新書（明徳出版社） 中国の古典（学習研究社） 中国の思想（徳間書店） いわゆる全集やシリーズものの類い。それぞれに特徴があるため、同じ作品が収められている場合はぜひ比較を。
	文選 詩篇（岩波文庫） 曹操・曹丕・曹植詩文選（岩波文庫） 文選：精選訳注（講談社学術文庫） 杜甫全詩訳注（講談社学術文庫） 漢詩鑑賞事典（講談社学術文庫） 文庫で手に入る訳本類の一部。『文選 詩篇』は詩のみだが、現時点で最高の訳注。『曹操・曹丕・曹植詩文選』は、三曹の詩の訳注として読みやすい。『文選：精訳文選』は部分訳だが収録されている作品の訳がよい。『杜甫全詩訳注』は、現代の中国文学研究者が協力して杜甫の全ての詩に訳注を施している。『漢詩鑑賞事典』は有名どころが収められており、一冊あると便利。ちくま学芸文庫の史記～三国志の訳注は、ふつうに読みものとしても読める。
	大漢和辞典（大修館書店） 新字源（角川書店） 漢辞海（三省堂） 汉语大词典（上海辞書出版社） 漢語大字典（四川辞書出版社） 西田太一郎『漢文の語法』（角川文庫版） 西田太一郎『漢文法要説』（朋友出版） 漢語文典叢書（汲古書院） 辞書の類い。『大漢和辞典』は日本の最大級の漢和辞典。用例には注意が必要。『新字源』、『漢辞海』はポケット版の辞書として有用。『新字源』は附録が充実、『漢辞海』は用例に訳がついているのがよい。『漢語大詞典』、『漢語大字典』は中国語だが、解説がかなり充実している。用例もよい。西田太一郎の二書はいわゆる句法の理解を進めるためにおすすめ。『漢語文典叢書』は、江戸の学者の解説書を影印で収録。中～上級者向けだが、句法や語義の解説を考える際にかなり有用。
	漢文訓読入門（明治書院） これならわかる漢文の送り仮名（新典社） これならわかる復文の要領（新典社） 漢文の指導法（漢水社） 漢文プロパーでない教員も使いやすい入門書。漢文の理解を進めるときに。部分的には、生徒に対しても使いやすい。『漢文の指導法』は指導法とあるものの、句法などの理解を進めるときにも使える。

指導方法の探究	<p>以下に紹介するものは、あくまでも参考図書です。これらを参考にしながら、目の前の生徒実態にあわせて、目標達成のために教材のよさを引き出す授業を考える必要があります。</p>
	<p style="text-align: center;">【授業技術等の理解】</p>
	<p>構造図からはじめる国語科授業デザイン（渓水社） 国語科授業研究講座（私家版） 教育科学国語教育【雑誌】（明治図書） シリーズ国語授業づくり（東洋館出版社） 国語単元学習の創造シリーズ（東洋館出版社） 指導言の技術/理論（大西忠治著 作集10, 11。明治図書）</p> <p>板書を考えるときに真っ先に参考にすべきなのが、『構造図からはじめる国語科授業デザイン』と小山清『国語科授業研究講座』。構造的な板書とは何かがよくわかる。『教育科学国語教育』は、毎号違う特集を組み、特集ごとに参考記事が多数あるが、紙幅が少ないため、背景理論などは調べる必要がある。シリーズ国語授業づくりと国語単元学習の創造シリーズは、日本国語教育学会が刊行しているもの。『指導言の技術』と『指導言の理論』は、発問を含む指導言の基本に立ち返るときにぜひ。</p>
	<p style="text-align: center;">【実践事例】</p>
	<p>高等学校国語科授業実践報告集（明治書院のシリーズ） 中学校国語科「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実をめざした授業改善（明治図書のシリーズ） 国語科研究紀要（広島大学附属中・高等学校）</p> <p>『高等学校国語科授業実践報告集』は、少し古いがいろいろと参考になる事例がある。『中学校国語科～』シリーズは、個別最適な学びと協働的な学びを考える際に。広島大学附属の研究紀要是、毎月行われている授業研究の記録が板書つきで載せられている。なお、広島大学附属福山は紀要をHP公開している。</p>